

開催の趣旨

日本は国土の7割を森林が占めています。森林に覆われた山は林業者の手に委ねられてきました。しかし、産業としての林業は木材価格の低迷、山村人口の流出による担い手の喪失により、衰退の一途を辿っています。今や日本の森林は放置され、その荒廃が進んでいます。しかし、林業の衰退は日本の国土に森林が不要になったということの意味するものではありません。森林は木材生産以外に水源涵養、国土の保全さらには国民にとっての保健休養の地としての役割、加えて、近年は地球温暖化抑止対策における森林による二酸化炭素の吸収、固定、貯蔵効果に注目が集まるなど、私たちの暮らしにとって益々必要なものになっています。森林の公益的機能を十全に発揮させながら、将来世代に健全な森林を引き継ぐため、今、何をすべきかを研究することは喫緊の課題です。今回のワークショップでは「環境資源としての森林の公益的機能の発現に向けてー森林保全のための新たな連携と合意形成ー」を募集課題とする重点研究助成に採択された研究チームからその研究成果をご報告いただきます。

この研究は、千年以上ものあいだ都であった古都京都という「自然と調和した景観を誇る地域」において、地域住民とともに、研究者・行政が一体となって「森林の保全と森林資源の利活用についてともに考え、ともに行動する学際的研究」のこれまでの成果について発表いただきます。

最初に代表研究者の京都府立大学大学院の田中教授から、研究の趣旨を説明いただき、その後「京都の森のこれまでの状況」「現在の木材利用の研究状況」を4人の方々に報告いただきます。そして休憩の後、「森林情報を如何に共有し、協働するか」というテーマで研究者およびNPOや行政の方々からの研究・活動報告をしていただきます。

これらの報告を通して、過去・現在・未来の京都周辺の森林実態を知り、森林実態の情報を実感として共有し、森林保全のための研究・施策・行動を今後どうすべきか（具体的には「京都モデルフォレスト」を如何に運営していくか）をご理解いただきたいと思います。

今回のワークショップの開催が「自然環境と調和した社会の実現」のために、私たちが今取り組むべきことをご理解いただき、これからの環境・地域・社会の再生・保全に取り組むための第一歩を踏み出すきっかけとなっていただくことを強く願っています。